

「讓って下さい」

- 1) Akasofu/Chapman: Solar-Terrestrial Physics, Oxford Univ. Pr.
- 2) Brandt: Introduction to the Solar Wind, W. H. Freeman.
- 3) Rishbeth/Garriott: Introduction to Ionospheric Physics, Academic Press.
- 4) Craig: The Upper Atmosphere, Meteorology and Physics, Academic Press.
- 5) チャンドラセカール (長田純一訳): 星の構造, 講談社.
- 6) 大林辰蔵編: 探査・太陽と惑星群, 共立出版.
連絡先: 〒 228 相模原市相武台 3-21-12,
山口 広

『意見』

「会員諸氏の黒点報告」復活のお願い

私は昭和30年頃、太陽の黒点観測を始めました。観測したスケッチと月毎の統計を東京天文台へ送っていました。当時は小野實さんが扱っておられました。毎日のスケッチにもよく目を通され、小さな黒点などは、よく発見できましたね とほめて下さったり、反対に見落としなどするときびしく指摘されたことを今でも覚えています。忙しい研究の中で、専門家から添削指導いただいたことに感激したものでした。私のこの観測は4-5年つづきましたが勤務が変わって観測がつづけられなくなり中断し、25年余たって定年退職してからは、時間的余裕もでき、平成2年からまた観測を始めました。平成3年にはディスターフィルターを購入し、今まで見えなかった刻々に変化するH α 線でみる太陽像を胸おどる思いで見せております。天文月報では「会員諸氏の太陽黒点報告」と

して1年に1回載せられていましたが、これが私共アマチュアにはたいへん大きな励みになっておりました。ところが私が観測を再開した頃から天文月報にこの記事が載らなくなってしまいました。編集部には電話でお尋ねしましたがはっきりしませんでした。事情はよくわかりませんが会員諸氏の「黒点報告」を絶やさないうようお願いいたします。天文月報も今年の1月から装いを新たに登場しました。私共アマチュアにも親近感と新しい魅力を満載した編集を喜んでおります。どうか、権威あるわれらが専門誌「天文月報」に、たとえ一行でも観測の足跡を印していただきたいと思ひます。そして多くの人々による継続する努力でこの分野に些かの貢献ができれば幸だと思ひております。

井田益雄 (前橋市)

「回答」

確かに「会員諸氏の太陽黒点観測報告」は一昨年頃から、途切れています。編集部では個別の観測報告をまとめることはできませんので、どなたかまとめて、投稿下されば、編集会議に諮った上、掲載します。(編集部)

平成4年4月20日
印刷発行
定価 550円(本体 534円)

編集委員 佐藤修二(編集長)、一本 潔、梅村雅之、奥村幸子、堂谷忠晴、半田利弘
発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422)311-1359 振替口座 東京 6-13595